

# 日本フィルハーモニー交響楽団 横浜定期演奏会

2024  
2025 横浜みなとみらいホール  
毎月土曜日 17:00 開演



## ●秋季

第401回 2024年10月5日(土)

指揮: 出口大地  
チェロ: 鳥羽咲音  
ハチャトゥリアン: バレエ音楽《スパルタクス》より  
「スパルタクスとフリーギアのアダージョ」  
カバレフスキー: 組曲《道化師》  
チャイコフスキー: ロココ風の主題による変奏曲  
ムソルグスキー(ラヴェル編曲): 組曲《展覧会の絵》

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000  
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

第402回 2024年11月23日(土)

指揮: ピエタリ・インキネン  
ヴァイオリン: 神尾真由子  
グラズノフ: ヴァイオリン協奏曲  
R. シュトラウス: アルプス交響曲

S席 ¥9,000 A席 ¥7,500 B席 ¥6,500  
C席 ¥5,500 P席 完売 Ys席 ¥2,000

第403回 2024年12月21日(土)

指揮: 下野竜也  
ソプラノ: 富平安希子 メゾソプラノ: 小泉詠子  
テノール: 糸賀修平 バリトン: 宮本益光  
合唱: 東京音楽大学  
ニコライ:  
歌劇《ウィンザーの陽気な女房たち》序曲  
ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》

S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000  
C席 ¥6,000 P席 合唱団 Ys席 ¥4,000

第404回 2025年1月25日(土)

指揮: 藤岡幸夫  
フルート: Cocomi  
武満徹: 組曲《波の盆》  
モーツァルト: フルート協奏曲第2番  
ルグラン: 交響組曲《シェルブールの雨傘》

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000  
C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

## ●春季

第405回 2025年3月22日(土)

指揮: 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]  
ヴァイオリン: 中野りな  
チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲  
リムスキー=コルサコフ: 交響組曲《シェエラザード》

第406回 2025年4月19日(土)

指揮・ピアノ: 横山幸雄  
ショパン: ポーランドの歌による幻想曲  
ショパン: 演奏会用ロンド《クラコヴィアク》  
ショパン: ピアノ協奏曲第1番

第407回 2025年5月31日(土)

指揮: ガボール・タカーチ=ナジ  
ピアノ: 三浦謙司  
シューベルト: 交響曲第7番《未完成》  
モーツァルト: ピアノ協奏曲第21番  
コダーイ: 組曲《ハーリ・ヤーノシュ》

第408回 2025年6月14日(土)

指揮: 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]  
ヴァイオリン: 千葉清加 [アシスタント・コンサートマスター]  
モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲第3番  
マーラー: 交響曲第1番《巨人》

第409回 2025年7月5日(土)

指揮: 原田慶太楼  
ピアノ: 阪田知樹  
ラフマニノフ: ヴォカリーズ (管弦楽版)  
ラフマニノフ: パガニーニの主題による狂詩曲  
ラフマニノフ: 交響曲第2番

## ●春季定期会員券(全5回)

11/27  
発売!

S席 ¥29,000 A席 ¥23,000 B席 ¥20,000  
C席 ¥18,000 P席 ¥15,800  
Ys席 (25歳以下) ¥9,000

定期会員券は最大38% OFF! 同月内の東京定期演奏会  
への振替が可能です!



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA  
— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —

日本フィルハーモニー交響楽団  
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第400回

# 横浜定期演奏会

400th YOKOHAMA Subscription Concert

2024年9月21日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm September 21st (Sat.), 2024, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 駐日シンガポール共和国大使館、神奈川新聞社、tvk

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))  
独立行政法人日本芸術文化振興会



【お申込み】日本フィル・サービスセンター

☎ 03-5378-5911 (平日10~17時) eチケット ▶ <https://eticket.japanphil.or.jp>

## 第400回に寄せて

昨年、横浜の地で50周年を迎えた《横浜定期演奏会》。この度、第400回目の公演を迎えました。横浜カルチュラル・ワンダーランドと題した取組も展開するなど、多くの方とコミュニケーションを深め、皆様に支えられながら継続、発展してまいりました。次の第500回に向けて、これからも魅力的な出演者・プログラムで、土曜のひとときを彩ってまいります。

これからも横浜の地でどうぞお楽しみください。

日本フィルハーモニー交響楽団

### 首席指揮者カーチュン・ウォンよりメッセージ

日本フィルハーモニー交響楽団のファミリーの一員であることを大変誇りに思っています。日本フィルは、私が家族と住む神奈川で50年以上にわたって定期演奏会を開催し、文化を支えてきました。400回という節目に、首席指揮者として皆様と音楽を共有できることを大変嬉しく思います。私の良き友人である素晴らしいピアニスト、ゲルハルト・オピッツ氏とのコンサートをお楽しみください。コンサート終了後、ホワイエでお会いできることを楽しみにしています！

首席指揮者カーチュン・ウォン

### 【横浜定期400回 感謝のアフターイベント開催】

終演後、一階ホワイエにて、本日の出演者が登壇するトークイベントを行います。楽員による演奏も！奮ってご参加ください。(25分程度を予定しております。)

### 【第400回までの軌跡】

1953年の第1回から本日の公演までの演奏歴はホームページに公開しております。ぜひ懐かしの演奏会を思い出してみてください。



## 大看板「日本フィルのチャイコフスキー4番」と巨匠オピッツとのブラームス

チャイコフスキーの4番と言えば、小林研一郎、アレクサンドル・ラザレフ、ピエタリ・インキネンといった多くのマエストロ達と名演を重ねてきた日本フィルにとって非常に大切な作品です。この宝物に若き首席指揮者カーチュン・ウォンがどのように新しい息吹をもたらしてくれるのか、非常に楽しみです。前半にはカーチュン自身の強いリクエストに基づき、現代ドイツ・ピアノズムの巨匠ゲルハルト・オピッツを招きます。重厚感と柔らかさが求められるブラームスの2番コンチェルトを、その深い知性と経験を通じて芳醇に奏でてくれることでしょう。

## Programs

ブラームス：

### ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.83 (約52分)

Johannes BRAHMS:  
Concerto for Piano and Orchestra No.2 in B-flat major, op.83

——— 休憩 (15分) Intermission ———

チャイコフスキー：

### 交響曲第4番 へ短調 op.36 (約44分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Symphony No.4 in F-minor, op.36

指揮：**カーチュン・ウォン** [首席指揮者]

Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor

ピアノ：**ゲルハルト・オピッツ**

Piano: Gerhard OPPITZ

コンサートマスター：**田野倉雅秋** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：**門脇大樹** [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

©Ayane Sato



## 指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]

日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者を務めるシンガポール出身のカーチュン・ウォンは、その舞台における圧倒的な存在感と東洋と西洋の芸術的遺産を探求し続ける思慮深さにおいて国際的に高く評価されている。今秋からはサー・マーク・エルダー氏の後任として、英国マンチェスターに本拠を置くハレ

管弦楽団の首席指揮者兼アーティスティック・アドバイザーに就任した。

2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝。ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラに客演。

ウォンは多くの現代作曲家と強い信頼関係を築いており、今シーズンはバービカン・センターでBBC交響楽団と共に細川俊夫の《祈る人》の英国初演、およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者就任記念演奏会のために特別に委嘱された、タイの作曲家ナローン・プランチャローンの《影の反映》の世界初演、また2022年には高名な導師でありインド人ヴァイオリニストであるカラ・ラムナスのために書かれた、レーナ・エスマイルの「ヒンドゥスタンヴァイオリンのための協奏曲」をシアトル交響楽団演奏にて世界初演したほか、2019年にはニューヨーク・フィルハーモニックとタン・ドゥン（譚盾）の《火の儀式》の米国初演を指揮している。国内においては日本フィルハーモニー交響楽団とのサントリーホール定期公演シリーズにて伊福部昭、芥川也寸志、小山清茂、外山雄三らの作品を定期的に演奏している。2022年、東京オペラシティ財団の招聘により、武満徹の意欲的な作品《弧（アーク）》を中心とした管弦楽作品を集めた公演を大成功に導き、日本の主要批評家によってその年の最も優れた演奏会の一つに選ばれた。

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご希望の方は主催受付までお申し出ください。

お客様へのお願い ●演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

©HT/PCM



## ピアノ：ゲルハルト・オピッツ

ドイツ・ピアノ界の正統派を代表する演奏家。音楽解釈におけるこの楽派の流れは、オピッツ自身の師であるヴィルヘルム・ケンプに繋がり、その源流はリストやベートーヴェンにまで直接遡る。

1977年、第2回アルトゥール・ルービンシュタイン国際コンクールで優勝し、一躍世界的な脚光を浴びた。1981年、ミュンヘン国立音楽大学で開校以来最

も若い教授となる。これまでに、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラ、カルロ・マリア・ジュリーニ、ロリン・マゼール、ズービン・メータ、サー・コリン・デイヴィス、ヴォルフガング・サヴァリッシュ等一流の指揮者と共演している。

古典から現代まで幅広いレパートリーを持ち、ベートーヴェンとブラームスに関しては、世界最高の演奏者の一人として確固たる地位を確立している。これまでに発売されたCDは80枚を超える。

日本では1994年、NHKテレビのベートーヴェン・ソナタの演奏およびレッスンを爆発的人気呼んだ。ベートーヴェン、シューベルト、シューマン&ブラームスの連続演奏会も好評を得る。親日家でもあり、日本で最も人気のあるピアニストの一人である。



← YouTube チャンネル

【2分でわかる大人のためのオーケストラ入門 Plus+】  
X、Instagramでは2分バージョン配信中!八木宏之の  
オーケストラ  
ガイド

© István Kohán



## 今日のコンサートの聴きどころは？

音楽評論家八木宏之さんの  
楽しい解説をお楽しみください!16時20分  
より  
大ホール内  
にて♪

八木宏之(やぎひろゆき) ● 1990年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程(修士:音楽学)およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程(Master 2 Professionnel Médiation de la Musique)修了。2021年春にWebメディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアアシオンを設立。クラシック音楽を中心に、プログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのプレトークなども積極的に行なっている。

## ブラームス：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.83

生前のヨハネス・ブラームス(1833-97)は、作曲家としてだけでなく、指揮者、さらにピアノの名手として名を馳せていた。そのような彼は、2曲のピアノ協奏曲を残しているが、両者は対照的な性格を帯びていると言われることが多い。

青春の激情や苦澁を色濃く湛えたとともに、いかなる手段や方法を用いて自らの世界を表現するかという苦心惨憺が刻まれたピアノ協奏曲第1番。その22年後に書かれた『ピアノ協奏曲第2番』は、功成り名遂げたブラームスが、風光明媚なイタリアに初めて旅行をする中で着想を得ただけのことはあって、全体的には穏やかで平和な雰囲気が支配的である。第1楽章冒頭、「角笛」を思わせるようなホルンのメロディによって、ピアノが中低音でしみじみと分散和音を奏でる箇所からも、それはよく分かる。

ところがその第1楽章からして、ピアノの独奏部分がひとまず終わり、オーケストラの部分に入ると、徐々に苦澁や苦悩を色濃く宿した楽想が入り込む点が特徴的だ。「タタター」というブラームス…あるいは彼が崇拝していたベートーヴェン(1770-1827)にお馴染みの、運命の動機も威嚇的に鳴らされる。それが極まるのが第2楽章。この楽章は急速な三拍子を基本とするスケルツォの形式で書かれているが、「スケルツォ」の元々の意味が「冗談」だとすると、冗談どころではない苦しみと情熱に溢れている。

ようやく安らぎが訪れるのが、緩やかなテンポを基調とする第3楽章。ピアノではなく、チェロ独奏がメロディを先導する異例の幕開けだが、ここでも奥底に深い痛みを秘めた楽想が随処に聴かれる。長調かと思えばそこに短調が忍び込む、複雑な表現方法の賜物に他ならない。第4楽章のラプソディックな明るさも、どこか屈託を抱えているのが特徴だ。

なお当作品だが、全曲演奏におよそ50分を要することからも分かるように、交響曲のそれに匹敵するスケールとなっている。スケルツォを協奏曲に採り入れ、全体を交響曲のごとく四楽章形式に仕立て上げるのも、当時としては実験的な試みだった。(なおこれは、「保守派」のブラームスと対極的存在といわれた「革新派」のリスト(1811-86)が、自らのピアノ協奏曲で既に実践していたことである。)また、ピアノ協奏曲第1番にも聴かれるような、ピアノ独奏とオーケストラとがこれ以上ないほど濃密に絡まり合う交響的協奏曲とも呼べる内容が、さらに進化／深化を遂げている。

初演がおこなわれたのは、1881年11月9日、ブタペスト。ブラームス自身がピアノ独奏パートを演奏した。

第1楽章：アレグロ・ノン・トロツポ、変ロ長調、4分の4拍子、ソナタ形式

第2楽章：アレグロ・アパシオナート、ニ短調、4分の3拍、3部形式

第3楽章：アンダンテ、変ロ長調、4分の6拍子、3部形式

第4楽章：アレグレット・グラツィオーソ、変ロ長調、4分の2拍子、ロンド形式

**楽器編成** 独奏ピアノ、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽5部。

## チャイコフスキー：交響曲第4番 へ短調 op.36

ピョートル・チャイコフスキー(1840-93)の不思議な女性関係については、これまでもいろいろと取り沙汰されてきた。その問題と最も深い関わりのある音楽が、まさにこの交響曲である。

何よりもこの作品は、彼の庇護者であった富豪のメック夫人(1831-94)に、「わが最良の友へ」という献辞とともに捧げられた。チャイコフスキーとメック夫人との書簡も、現存するだけで500通を数える。だが14年以上に及ぶ文通にもかかわらず、彼らは奇妙なことに一度も顔を合わせることもなかった。

そんなメック夫人に宛てて、チャイコフスキーは交響曲第4番の内容に関する詳しい解説を送っている。その概略は、「人間が常に抱えている幸福への熱望は、いつもある運命的な力によって抑圧されるものであるが、それを宿命として我慢することによって、人生は耐えることのできるものとなる」というもの。

しかもこの交響曲を作曲する直前、チャイコフスキーは教え子の女性と結婚した。ただし同性愛的傾向をも濃厚に具えていた彼にとって、結婚生活はすぐさま重荷となり、ほどなくして崩壊する。追い詰められたチャイコフスキーは、サンクト・ペテルブルクにいる弟のもとに逃れ、やがてイタリアをはじめとする外国へ一種の転地療養に出かけた。

1877年から78年にかけてチャイコフスキーを襲ったこうした“危機の時代”に作曲されたのが、交響曲第4番である。というわけで、彼の作品の奥底に響き続けていた“宿命”というテーマが色濃く写し出されているのも当然のこと。第1楽章の冒頭に出現し、その後も執拗に現れる威嚇的なファンファーレ(いわゆる「宿命の動機」)はまさにその象徴だ。続く第2楽章も、チャイコフスキーならではの憂鬱と感傷が緩やかなテンポを基に際限なく広がり、救いの光明は見られない。さらにスケルツォの形式で書かれた第3楽章は、たしかにメロディこそ楽し気であるものの、弦のビツィカートを主体に、管楽器の煌めきが夢幻のように明滅するオーケストレーションにより、どこか不安を宿した儚さが支配的である。

ただしこの“宿命”は、交響曲第4番の時点では、作曲者のコメントにもあるように、辛うじて「耐えることのできる」ものだった。様々な紆余曲折はあるものの、交響曲の結論部分ともいえる第4楽章では、打楽器も含めて輝かしい結末が訪れる。ただしその輝かしさは、真の勝利なのか、それともかりそめのものなのか。哀愁に溢れたロシア民謡『白樺は野に立teri』が随所に出現したり、終わり近くには「宿命の動機」までが威圧的に奏でられたりする様を聴くにつけ、その解釈が弾き手にも聴き手にも委ねられているかのようだ。

第1楽章：アンダンテ・ソステヌート、へ短調、4分の3拍子からモデラート・コン・アニマ、へ短調、8分の9拍子

第2楽章：アンダンテ・イン・モード・ディ・カンツォーナ、変ロ短調、4分の2拍子、3部形式

第3楽章：スケルツォ・ビツィカート・オスティナート、アレグロ、へ長調、4分の2拍子

第4楽章：アレグロ・コン・フォーコ、へ長調、4分の4拍子

**楽器編成** ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦楽5部。



歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安

## 奇数偶数



〈400〉回目を迎える横浜定期演奏会で、ブラームスの『ピアノ協奏曲第〈2〉番』と、チャイコフスキーの『交響曲第〈4〉番』が演奏される…。

おそらくは偶然だろうが、〈400〉、〈2〉、〈4〉という数字それぞれを見ると、それらはいずれも偶数である。そして殊西洋クラシック音楽において、「奇数」は男性的であり、「偶数」は女性的である、ということがしばしば言われてきた。

なぜこのような考え方が出て来たのかと言えば、ベートーヴェンの交響曲に、概ねそのような特徴が見られるからだ。『交響曲第3番』『同第5番』『同第9番』はその典型であり、それぞれ「英雄」「運命」「合唱」という呼称が付けられているのもその表れ。髪を振り乱し、様々な困難と闘う「男の中の男ベートーヴェン」のごときイメージを喚起するものばかりだ。

またそうしたベートーヴェン・イメージがあまりにも根強かったためだろう。彼の後に続く後輩音楽家たち、特に「ベートーヴェンの衣鉢を継ぐ存在」と周囲から見なされたブラームスは、「合唱」を超える交響曲を書かなければならないというプレッシャーに苛まれ、最初の交響曲＝『交響曲第1番』を書くまでに、20年以上の歳月を要してしまった。『ピアノ協奏曲第1番』もそこまではないものの、完成までには大変な労力が注がれ、内容もきわめて深刻だ。

逆に言えば、これらの作品の後に続く『交響曲第2番』や『ピアノ協奏曲第2番』は、大きな壁を乗り越えた後の解放感が大いに影響したのだろう。作曲期間は短く、曲想も明朗である。ただし、たとえば『ピアノ協奏曲第2番』が単に明るいだけの曲かと言えば、決してそうではない。その随所には、ブラームスの曲ならではの深い翳りが聴かれる。同様に、偶数の番号が付けられているからといって、チャイコフスキーの『交響曲第4番』が明るい作品かと言えば、少なくとも第4楽章を除いてはそうとはいえない。

伝統的な「男性らしさ」「女性らしさ」の見直しが進む中、西洋クラシック音楽の受け取り方も、より柔軟になるのではないかと期待さ抱かせてくれる、横浜定期演奏会の新たな船出のプログラムである。



ブラームス作曲『ピアノ協奏曲第2番』初版の楽譜。Concert という文字の下に、「No.2」という表記がみえる。

Next YOKOHAMA

## 第401回 横浜定期演奏会

2024年10月5日(土) 17:00  
横浜みなとみらいホール

指揮: 出口大地  
チェロ: 鳥羽咲音

16:20~  
小宮正安氏による  
オーケストラガイド♪



出口大地



鳥羽咲音

ハチャトゥリアン: バレエ音楽《スパルタクス》より  
「スパルタクスとフリーギアのアダージョ」

カバレフスキー: 組曲《道化師》op.26

チャイコフスキー: ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 op.33

ムソルグスキー(ラヴェル編曲): 組曲《展覧会の絵》

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000 C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000  
※ Ys: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

## 第407回 名曲コンサート

2024年10月27日(日) 14:00 開演  
サントリーホール

指揮: 広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]

ソプラノ: 中村恵理 メゾソプラノ: 福原寿美枝

テノール: 宮里直樹 バリトン: 高橋宏典

オルガン: 長井浩美

合唱: 日本フィルハーモニー協会合唱団

J.S. バッハ:

主イエス・キリスト、われ汝を呼ぶ BWV639

M. ヴィドール:

オルガン交響曲第5番 op.42-1 より  
第5楽章 トッカータ へ長調

J.S. バッハ: 主よ、人の望みの喜びよ  
(以上3曲オルガン独奏)

ヴェルディ: レクイエム



©Masaaki Tomitori

広上淳一



中村恵理



福原寿美枝



宮里直樹



高橋宏典

© 深谷義宣 auraY2

©hiro.photo

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P 合唱団 Gs (70歳以上) ¥5,000  
Ys (25歳以下) ¥2,000

■第766回東京定期演奏会 出演者変更のお知らせ

11月29日(金)、30日(土)に出演予定でした指揮の沖澤のどか氏は、11月に出産予定となりましたため、当公演への出演を取りやめとなりました。

指揮にはポーランドの新星パヴェウ・カプワ氏を迎えます。プログラム・ソリストには変更ございません。

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

■「にじクラ ～トークと笑顔と、音楽と 第5回」出演者変更のお知らせ

9月25日(水)に出演予定でしたヴァイオリニスト前橋汀子氏は、健康上の理由により出演できなくなりました。当日のソリストには竹澤恭子氏(ヴァイオリン)が出演いたします。指揮者・プログラムに変更はございません。

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組!『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54~23:00(第3週、第4週は再放送)。ぜひご覧ください!

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

■Instagramはじめました!

日本フィルの公式Instagramができました。フォロー、いいね、よろしくお願いいたします!



JAPANPHIL.OFFICIAL

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

日本フィル・サービスセンター

〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時~17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。

7月の寄付者 匿名1名

敬称略・五十音順

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

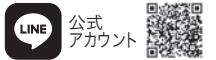
オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」  
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。  
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)/広上淳一

公式X(元Twitter)  
@Japanphil



<p>ソロ・コンサートマスター 扇谷泰朋 木野雅之 田野倉雅秋</p> <p>アシスタント・コンサートマスター 千葉清加</p> <p>第1ヴァイオリン 伊藤太郎 太田麻衣 九鬼明子 齋藤政和 柳 渚 竹歳夏鈴 谷崎大起 田村昭博 中谷郁子 西村優子 平井幸子 本田純一</p> <p>第2ヴァイオリン 遠藤直子 大貫聖子 岡田紗弓 加藤祐一 神尾あずさ 川口 貴 佐藤駿一郎 末廣紗弓 豊田早織 町田 匡 松川葉月 山田千秋 ヴィオラ ☆安達真理 江藤史織 小俣由佳 小中澤基道 児仁井かおり 高橋智史 中川裕美子 中溝とも子 松澤雅奈</p>	<p>ソロ・チェロ 門脇大樹 菊地知也</p> <p>チェロ 石崎美雨 伊堂寺 聡 江原 望 大澤哲弥 久保公人 山田智樹</p> <p>コントラバス ◎高山智仁 鈴木優介 成澤美紀 宮坂典幸 森田麻友美 山口雅之</p> <p>フルート ◎真鍋恵子 齋藤光晴 難波 薫 オーボエ ◎松原由希子 ◎岡岡裕雅 ◎鈴木真登</p> <p>クラリネット ◎伊藤寛隆 ◎楠木 慶 照沼夢輝 堂面宏起 ファゴット ◎田吉佑久子 ◎鈴木一志 大内秀介 中川日出鷹</p> <p>ホルン ◎丸山 勉 ◎信末碩才 伊藤 舜 宇田紀夫 原川翔太郎 村中美菜</p>	<p>ソロ・トランペット オッタピアーノ・クリストーフォリ</p> <p>トランペット ◎大西敏幸 大飼伸紀 中里州宏 中務朋子 星野 究</p> <p>トロンボーン ◎伊藤雄太 笠岡勇登 バス・トロンボーン 中根幹太 チューバ 柳生和夫 ティンパニ ◎エリック・バケラ 池田健太</p> <p>パーカッション 大河原 渉</p> <p>ハープ 松井久子</p> <p>楽団長 星野 究</p> <p>チーフステージマネージャー 阿部紋子</p> <p>ステージスタッフ 長橋健太 森田大翔</p> <p>チーフインスペクター 佐藤駿一郎</p> <p>インスペクター 宇田紀夫 鈴木優介 谷崎大起</p> <p>ライブラリアン 鬼頭さやか 杉本哲也</p> <p>◎首席奏者 ◎副首席奏者 ◎客演首席奏者 ☆試演期間</p>	<p>理事長(代表理事) 平井俊邦</p> <p>副理事長(代表理事) 五味康昌</p> <p>専務理事(代表理事) 福井英次</p> <p>常務理事(代表理事) 後藤朋俊</p> <p>理事 石井啓一郎 石塚邦雄 佐々木経世 田村浩章 戸所邦弘 中根幹太 葉田順治 福本ともみ</p> <p>監事 上條貞夫 福澤宏哉</p> <p>評議員会会長 加藤丈夫</p> <p>評議員 青井 浩 安孫子 正 荒蒔康一郎 石村 等 稲垣 尚 内川清雄 大塚宣夫 海堀周造 梶浦卓一 河北博文 喜多崇介 木村恵司 久保田 隆 小林研一郎 島田精一 津田義久 西澤 豊 野間省伸 福満一夫 村上典吏子 山口多賀幸</p> <p>名誉顧問 熊谷直彦 島田晴雄 田邊 稔</p> <p>コミュニケーション・ディレクター マイケル・スペンサー</p> <p>マネジメント・スタッフ 浅見浩司 磯部一史 江原陽子 及川ひろか 小川紗智子 萩島里帆 賀澤美和 柏熊由紀子 小須田萌 佐々木文雄 澤田智夫 篠崎めぐみ 杉山綾子 杉山まどか 高橋勇人 田中正彦 樋谷祐子 中西沙緒里 西田大輔 西田真菜 長谷川珠子 藤田千明 藤村益江 別府一樹 益満行裕 宗澤晶子 山岸淳子 吉岡浩子 シニア・パートナー 新井康允 伊波 睦 永島義郎 南部洋一</p>	<p>団友 青柳哲夫 青山 均 赤堀泰江 新井豊治 石井啓一郎 伊藤恒男 伊波 睦 遠藤 功 遠藤剛史 大石 修 大川内 弘 寛 美知子 金本順子 蒲谷隆行 川口和宏 菊田秋一 岸良開城 吉川利幸 木村正伸 小林俊夫 小山 清 斎藤千種 佐々木裕司 佐藤玲子 菅原 光 高木裕子 高木雄司 高木 洋 高倉理実 田沢 烈 立川和男 藤田千明 立川和男 富樫尚代 豊田尚生 中川二郎 永田健一 中務幸彦 奈切敏郎 橋本 洋 畑井紀代子 平賀法子 福島喜裕 松本克巳 松本伸二 三本克郎 宮武良平 三好明子 森 茂 山下進三 山科淑子 渡辺哲雄</p>
---	---	---	---	---